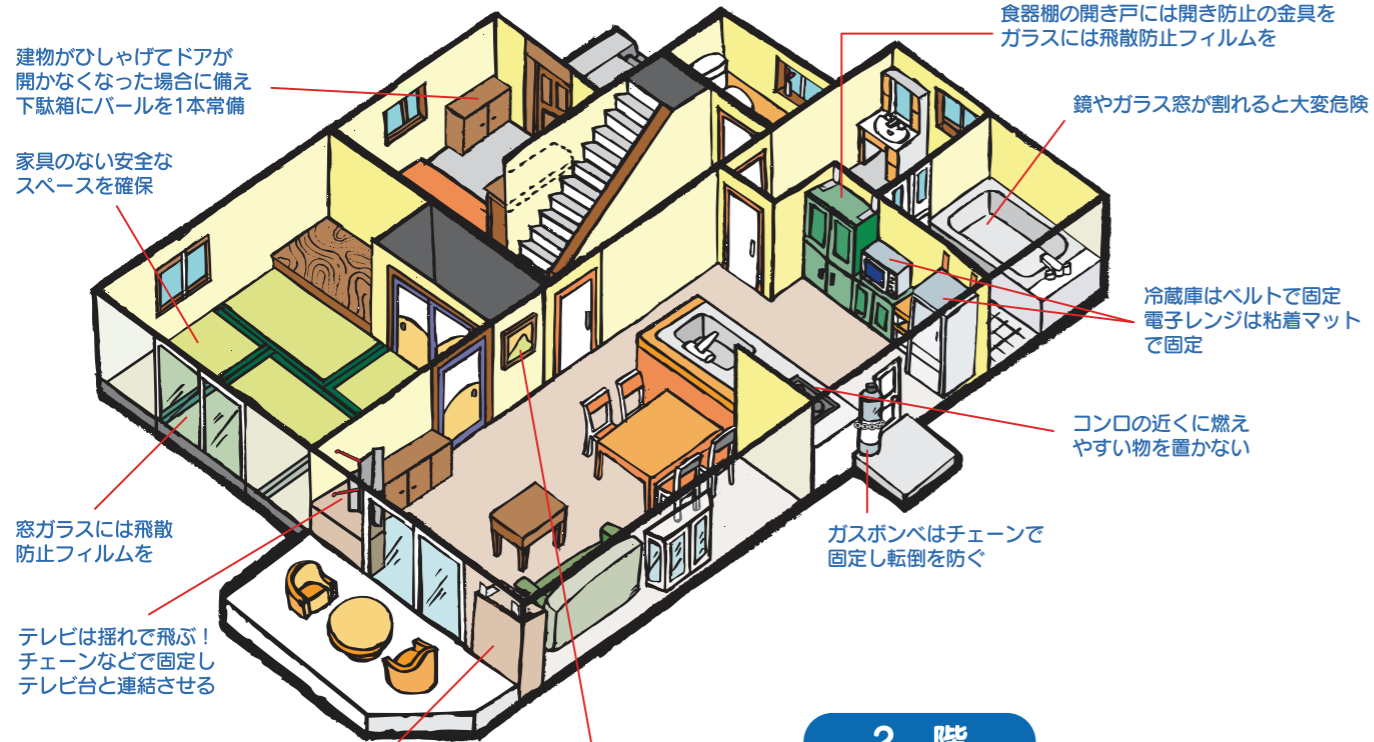


地震が起きても わが家で 暮らす方法

家具類の転倒防止

地震のとき、家具の転倒や棚からの物の落下、ガラスの破片などで、たくさんの方が死亡したり、ケガをしています。タンスや食器棚などの家具のほか、冷蔵庫やテレビなどの電化製品にも転倒や落下防止対策が必要です。窓ガラス等には飛散防止対策をしてください。また、寝室には、家具を置かない、家具を置く場合には、置く場所を工夫するなど安全に対する備えが必要です。

1 階



2 階



これだけ準備しても、家が倒壊してしまったら…。やっぱり耐震化が大切です。

自宅が昭和56年5月31日以前に建てられた木造住宅の場合は、まずは耐震診断を受けてみましょう！
耐震診断は無料で受けることができます。また、耐震補強工事には、県や市町から補助金が出ます。詳しいことは、お住まいの市町の建築の窓口にお問い合わせください。

家庭内DIG

ディグ

地震がきても

わが家で暮らす

方法



ディグ
『DIG』って何??

『DIG』とは、大きな地図を囲みながら、参加者全員で災害時の対応策などを考える訓練のことで、Disaster Imagination Gameの頭文字をとって『DIG (ディグ)』と名付けられました。英語の動詞“dig”には、「掘り起こす、探求する、理解する」といった意味があります。『DIG』という名称には「防災意識を掘り起こそう」「地域を探求しよう」「災害を理解しよう」といった、この訓練のねらいが込められています。

これまでに起きた地震では、家屋の倒壊のほか、家具の転倒や落下物、ガラスの破損などにより、多くの方がケガをし、命を落とされました。いつ起きても不思議ではない」といわれる東海地震においても、対策を取らなければ、大きな被害があることは明らかです。東海地震が起きた時、自宅で命を落とさない、ケガをしないためにはどうすればよいか、考えてみましょう。また、過去の災害では、多くの被災者が避難所に押し寄せ、避難所での生活は大変過酷なものでした。

そんな避難生活をするのではなく、引き続き自宅で生活したいものです。地震の後、電気・ガス・水道が止まってしまっている不自由な中、いかにして自宅で生活していくか、そのためには、どのような準備をしておけばいいのか、この家庭内DIGを使って家族で話し合いをしてみましょう。

CHECK

右のステップで
わが家の危険度を
チェック
してみよう!!

STEP1 ~平面図を描く~

下の枠内に自宅の平面図を描いてみよう

STEP2 ~危険な場所を探す~

右のページを参考に、自宅の危険な場所
をチェックしてみよう。

STEP3 ~元栓等の位置を確認~

電気のブレーカー、ガスの元栓やマイコ
ンメーターの場所を確認しよう。

過去の災害では、停電回復後の通電火災が多数発生しています。
災害発生後、避難する場合は必ずブレーカーを落としてから避難
しましょう。ガスの元栓も忘れずに。

STEP4 ~避難経路の確認~

地震発生後の家の中は、倒れた家具や割れ
たガラスなどで屋外に出るのは至難の業で
す。普段過ごす部屋から屋外への避難経路
を考えてみよう。

STEP5 ~震災後の生活を考える~

地震発生後もわが家で生活するため、次の
ことを考えておきましょう。

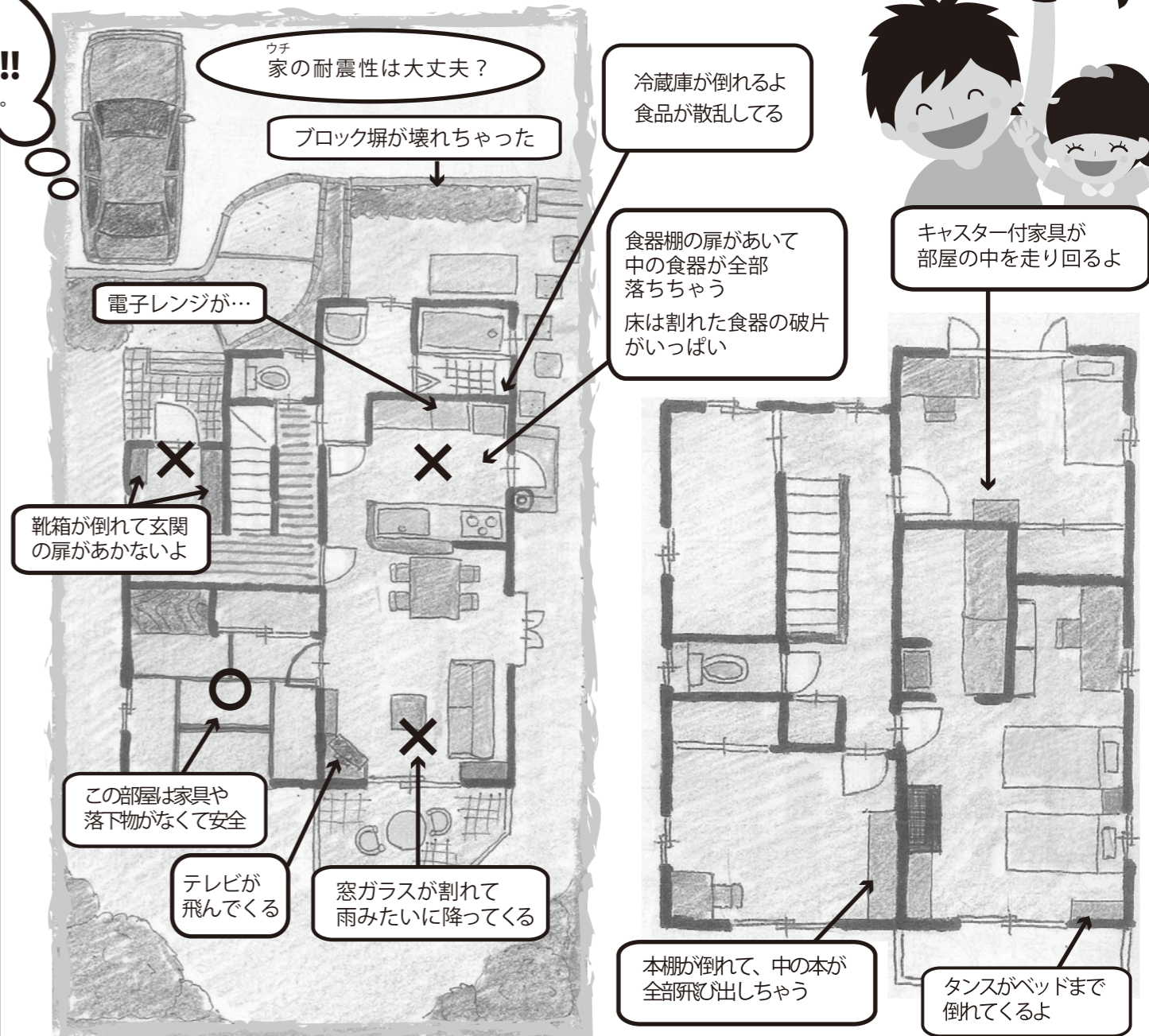
- ☆どの部屋で生活するか?
- ☆食料、飲料水はどうする?
- ☆トイレの問題は?
- ☆寒さ対策は?

こんな感じで
まとめてみよう!!
あぶない場所がよくわかるよ。

DIGをしてみると、よくわかる

地震が起きた時、わが家の ここが危険!

準備しておけば
安心だね。



家の中や 周辺の 危険箇所

■リビング・ダイニング

- テレビ=飛んできてくる
- 本棚=転倒して、中の本が全部飛び出す
- ピアノ=部屋の中を走り回る
- 窓=割れて部屋の中に破片が散乱する
- 掛時計=落ちてガラスの部分が割れる
- 照明=落ちて、蛍光灯が割れる

■キッチン

- 食器棚=扉が開いて中の食器が落ち、床に割れた食器が散乱する
- 冷蔵庫=転倒して、中の物が散乱する
- 電子レンジ=飛んできてくる

■寝室

- タンスやドレッサーなどの家具が転倒する

■子供部屋

- 学習机=上の棚が倒れる
- 本棚=転倒して中の本が全部飛び出す
- キャスター付家具=部屋の中を走り回る

■屋外

- ブロック塀=倒れて粉々になる
- 物置=転倒する

■集合住宅の共用部分

- エレベーター=停止する